

令和3年度 宮井小学校 学校評価結果について

1 学校評価について

学校評価は信頼される開かれた学校づくりをめざして、「児童がよりよい教育活動を受けること」をねらい、「学校をよりよくする」ために、学校・保護者の方々・地域の方々の協力により進めていく活動です。児童・保護者のアンケート結果や本年度の教育活動の振り返りをもとに教職員の自己評価などの学校評価を行います。学校評価を今後の学校運営や学校改善に生かし、児童や保護者、地域に信頼される開かれた学校づくりをめざして取組を進めます。

2 学校評価の活動について

学校評価の活動は、大きく次の5つの活動を行います。

- 児童・保護者アンケート
- 教職員の自己評価
- 学校関係者評価（学校評価協力委員会）
- 学校評価結果を受けての今後の改善策の検討とまとめ
- 学校評価結果及び今後の改善策等の公表

3 学校評価の回答数と回答率について

児童(回答率100%)
保護者(回答率93%)
教職員(回答率100%)

4 学校評価アンケートの結果と課題、次年度への取組について

今年度の学校評価アンケート（児童・保護者・教職員）の結果を比較できるようにグラフにまとめました。「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」「信頼される学校づくり」の4つの領域と学校教育全般についてのご意見・ご感想、家庭教育に関するアンケート、自由記述について記載しております。

※グラフの見方につきましては以下のような表にまとめています。

グラフの見方	児童	■ そう思う	▣ だいたいそう思う	■ あまりそう思わない	□ 思わない	
	保護者	■ よく当てはまる	▣ 当てはまる	■ あまり当てはまらない	□ ほとんど当てはまらない	▣ わからない
	教職員	■ よくできた	▣ だいたいできた	■ あまりできなかった	□ できなかった	

※前年度の肯定的回答の割合、を▲で表しています。

児童 「そう思う」「だいたいそう思う」の回答の合計
保護者 「よく当てはまる」「当てはまる」の回答の合計



確かな学力の育成について

○成果

児童の回答では、設問①「分かる授業」②「基礎学力の定着」について、①約87%、②約85%の肯定的回答を得ており、概ね高い評価であった。

保護者の回答では、全ての設問について、約90%以上の肯定的回答を得ており、③「表現力」を除いて前年度よりアップしており、非常に高い評価であった。(③についても約95%と非常に高い評価である)

教職員の回答では、設問①②について、共に約94%の肯定的回答を得ており、非常に高い評価であった。

○課題

設問③「表現力」については、保護者の肯定的回答が95%に対し、児童は63%で少なく、教職員は76%であった。

設問④「読書活動」については、保護者の肯定的回答が92%に対し、児童は48%で非常に少なく、教職員は51%で、昨年度に続き課題となっている。

設問⑤「家庭学習」については、保護者の肯定的回答が91%に対し、児童は74%で少なく、教職員は81%であった。

○次年度への取組（R3年度の学校評価を基に検討したこと）

- 読書している児童としていない児童との二極化があるので、していない児童に読書の機会をつくるのが大切である。また、家庭での読書時間が十分にとれない傾向があるので、朝の活動や国語の授業の最初の時間、移動図書館いずみ号など、学校で読書の機会やきっかけをつくる必要がある。さらに、読書活動がより充実するように、読書週間の設定、週末に図書を借りさせて土日に読書をする図書の貸し出し方法、学期毎の図書ラウンドカードを作成するなど、読書活動や図書室の利用の仕方を見直した上で工夫改善を図る。
- 『徳島新聞阿波っ子タイムズ』が週毎全員に無償配布されているので、新聞を図書に替わる教材資料として位置付け、学校全体で学年に応じて積極的に活用していくようにする。
- ホワイトボードやタブレットを活用しながら、児童が意見共有できる機会を設け、自分の考えを分かりやすく伝える力や友達の考えを聞く力を育てる。
- 授業や生活の中で自分の考えを述べたり相手の意見と比べながら聞いたり自分の考えを書いたりする機会を多く設定する。
- テーマを決めた日記や作文、スピーチ等により、自分の考えを表現する機会を増やす。

豊かな心の育成について

○成果

設問⑥「豊かな心や人間性の育成」⑦「仲間づくり」⑩「挨拶の指導」について、児童は⑥約82%、⑦約89%、⑩約85%、保護者は⑥約87%、⑦約87%、⑩約91%、教職員は⑥約94%、⑦約87%、⑩約84%の肯定的回答が得られ、児童・保護者・教職員とも80%以上の高い評価であった。

○課題

設問⑧「学びの生活化」については、保護者の肯定的回答が約92%で前年度と同じであるのに対し、児童は約76%と前年度より下がっている。教職員は約81%であった。設問⑨「宮井校区のよさ」については、保護者の肯定的回答が95%で、前年度よりも3%向上しているのに対し、児童は約79%で前年度より10%ほど下がっている。教職員は約75%であった。

○次年度への取組（R3年度の学校評価を基に検討したこと）

- 道徳教育や人権教育は授業の時間に加えて、学校教育全体を通して児童や学級の実態を踏まえながら行うなど日々の指導が大切であり、授業での学びが実際の生活とリンクするような声かけを増やして、学びが生活の中で生かされるようにする。
- ポジティブな行動支援を行い、自分や友達のよさを視覚化しながら児童相互に理解し合えるようにすることで自尊感情を高め、互いのよさを認め合える学級づくりに引き続き取り組む。
- 通常学級と特別支援学級の交流を大切にし、互いに認め合い協力し合う人権意識を育成していく。
- コロナ禍により体験活動や学校行事がしにくい状況もあるが、その中でもより工夫して温かい雰囲気づくりを心掛け、思いやりのある態度が育成できるような学びの場を設定する。そして、児童の豊かな心や人間性を育成して宮井の校区や人のよさを実感できる児童の育成を目指す。

健やかな体の育成について

○成果

設問⑫「食育」について、児童は約81%、保護者は約91%、教職員は約94%の肯定的回答が得られ、概ね高い評価であった。

○課題

設問⑩「規則正しい生活」については、保護者から約89%の肯定的回答が得られたのに対し、児童は約65%で非常に少なく前年度より約5%下がっている。教職員は約94%である。

設問⑬「体力の向上」について、肯定的回答の割合が児童は93%、保護者は約97%と非常に高い評価が得られたが、教職員は約63%であった。

設問⑭「外遊びの奨励」については、児童の肯定的回答が約79%、保護者は約81%でどちらも前年度より上がっているが、教職員は約75%であり、課題が残る。

○次年度への取組（R3年度検討）

- 基本的な生活習慣の確立のため、長期休業中の「げんきチェックカード」を来年度も継続する。家庭と協力をして意識付けを行い、学校から課題を提示することで、保護者と連携をとりやすくなるようにする。また、テレビやゲームという項目をメディアとしてくり、動画やYouTubeを見るときのみまもりもつくっていく。
- 毎日の食育指導および給食指導に加え、児童会活動と連携して来年度も定期的にゼロリンピックを実施する。
- 「あるこうデー」の検討が必要である。継続して実施するならば、家庭と全校児童への啓発が必要だが、飯谷通学支援タクシーの子どもたちが参加できないことは課題となる。今後、代表委員会で検討し、あるこうデーに代わる運動を運動委員会が企画、運営していくとよい。
- 体力テストの結果の活用を行う。各学年で結果や課題をまとめ、職員会等で報告・周知し、課題の共有化を図る。
- 外遊びの奨励に向け、運動委員会を中心に啓発できることを考える。「スポーツデー」などを設けて、外遊びをしながら体を動かす機会をつくるのもいいのではないかな。

信頼される学校について

○成果

児童の回答では、設問⑯「学校行事の工夫・改善」、⑰「安全教育、環境設備」について、⑯約89%、⑰約97%の肯定的回答を得ており、非常に高い評価であった。

保護者の回答では全ての設問について約90%以上の肯定的回答を得ており、前年度以上の非常に高い評価であった。

教職員の回答では⑮～⑲の設問全てについて約80%以上の肯定的回答を得ており、高い評価であった。

○課題

設問⑮の「先生とのかかわり」については、児童の肯定意見・否定意見共に約50%ほどで肯定的回答が前年度より約16%下がっている。教師や保護者の意識との差が大きいことから、具体的な取組が必要である。

○次年度への取組（R3年度の学校評価を基に検討したこと）

- 児童理解は全教職員で共通理解していくことが重要であり、児童の細かい面まで見守るような態勢づくりをしていく。また、全ての児童についての情報交換をおこなう機会を増やす。（学期ごとに1回程度→月に1回程度の実施へ）
- 学校行事の意義や必要性を確認しながら精選を図り、コロナ禍においても実施できる方法を考え、工夫しながら今までの学校行事を継続・発展していけるようにする。
- 保護者に必要な教育情報等を毎日きめ細かく伝えていくことが、信頼される学校につながると考えるため、今後も感染症対策や安全教育について家庭との連携を強化しながら取り組んでいく。
- ホームページで学校の教育情報を発信しているが、更に関心をもって見てもらうように、内容の工夫や保護者への呼び掛けを行う。
- 来年度から実施のコミュニティースクール（学校運営協議会）を効果的に機能させ、より開かれた学校づくりを行えるようにする。

5 学校評価協力委員会（学校関係者評価）について

■ 学校評価協力委員会（学校関係者評価）とねらいについて

宮井小学校学校評価協力委員会は、学校評議員、PTA役員、地域の学校関係者などの学校関係者により構成された学校評価協力委員（本年度はコロナ感染拡大防止のため学校評議員3名、PTA会長1名の計4名で構成）が、教職員の自己評価の結果や児童・保護者のアンケート結果などについて評価等することを基本として行う学校関係者評価です。学校評価協力委員会（学校関係者評価）のねらいは、次の3点です。

- ・評価活動を通して保護者や地域住民などとお互いに理解を深める。
- ・教職員による自己評価の客観性・透明性を高める。
- ・保護者や地域住民がよりよい学校づくりのプロセスに参加する仕組みをつくる。

■ 学校評価協力委員会（学校関係者評価）の評価結果について

▲（前年よりアップ） ▼（前年よりダウン） ▲▼（前年と同じ）

学校評価協力委員の評価結果		(%は「よくあてはまる」・「おおむねあてはまる」の計)
本校の教育	① 学校は、保護者や地域の願いに応えようとしている。	100%▲▼
	② 学校は、児童の教育に熱心に取り組んでいる。	100%▲▼
	③ 学校は、いじめのない明るい学校づくりに取り組んでいる。	100%▲▼
	④ 学校は、児童一人一人を理解し、よさや可能性を伸ばすよう心がけている。	100%▲▼
	⑤ 学校は、児童が楽しく学ぶために、「分かる」授業に努めている。	100%▲▼
	⑥ 学校は、地域と連携して教育活動を進めようとしている。	100%▲▼
	⑦ 学校は、感染症対策など教育活動の安全管理や教育環境の整備に努めようとしている。	75%▲▼
	⑧ 学校は、地域行事に積極的に関わろうとしている。	100%▲
児童の様子	⑨ 児童は、規則正しい生活を送っている。	75%▲▼
	⑩ 児童は、気持ちのよいあいさつができています。	100%▲▼
	⑪ 児童は、やさしく思いやりのある態度が見られる。	100%▲▼
	⑫ 児童は、元気になかよく遊んでいる。	100%▲▼
	⑬ 児童は、粘り強くがんばることができています。	50%▼

(※コロナ感染拡大防止のため、学校関係者評価委員は13名から4名になっています。)

■ 学校評価協力委員の評価結果傾向や意見等について

◇本校の教育について

学校評価協力委員の方は、①～⑧の観点の本校の教育について「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」として肯定的な評価をしています。特に⑥「地域と連携して教育活動を進めようとしている」は全員が「よくあてはまる」として高い評価結果になっています。

意見交換の中では、学校行事において、もちつき体験学習がニュースにも流れ、学校が地域や保護者と共に協力して、楽しく魅力ある活動を行っている発信ができ、よかったという意見をいただきました。

外出を制限せざるえないコロナ禍での家庭生活について、読書のよさや意義を児童に伝え、児童が興味をもって読書に取り組み、おもしろい本に出会う機会を増やして欲しいという意見をいただきました。

◇児童の様子について

⑨～⑬の観点の児童の様子について概ね肯定的な評価をされています。来年度、コミュニティースクール（学校運営協議会）の導入により、より開かれた学校づくりを行うようになります。

⑬については、コロナ禍で多くの活動が制限され、学校も社会的な影響の中で積極的に関わりがとりづらいう状況となり、児童は目標をもって活動する機会が少なくなってきた。しかし、毎年続けている行事や活動が児童の成長にプラスとなっていることは事実である。先生方が試行錯誤しながらも、工夫や改善によって様々な対策をとっており、地域も連携してよりよい児童の教育活動にしていきたいというご意見もありました。

◇その他意見

- ・食育指導は、一方的な押しつけでなく、個々に合わせて取り組んでいることがわかってよかった。
- ・Web会議を使って学校間で交流をし、他の学校の状況を知る機会をつくってはどうか。

6 学校評価結果及び今後の改善策等の公表について

学校評価結果及び今後の改善策等につきましては、「宮小ホームページ」「PTA会合」等を通して広く公開したり、説明したりしていきます。学校評価の取組を通して、これからの宮井小学校がより「楽しい学校」「やる気のある学校」「やさしい学校」となるよう取り組んでいきたいと考えています。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。